



「京都高瀬川彫刻展」

いつまでも安心して住み続けられる地域を

- | | | |
|--|-------|----|
| ・「河川の安全・防災を考える視点」 <講演の報告> | 山本真気 | 2 |
| ・「新型コロナ禍にあって地方自治体の保健衛生行政に求めたいこと」 2 | 中村 暁 | 4 |
| ・京丹後市「米軍基地における新型コロナ感染症拡大」における問題点と取り組みの経過 | 橋本まり子 | 6 |
| ・連載(24) 今を読み解く一枚
「1952年 京都市労連への全国支援」 | 池田 豊 | 8 |
| ・交流のひろば | | 9 |
| ・私の本棚 書籍紹介 「経済政策で人は死ぬか? - 公衆衛生学から見た不況対策 -」 | 西山英利 | 10 |
| ・続カメラ探訪 33 「文化芸術の秋を楽しむ」 | 内野 憲 | 11 |
| ・事務局通信 | | 12 |

10
October
2020

一般社団法人 京都自治体問題研究所 発行人 大田直史
〒604-0863 京都市中京区夷川通室町東入ル 巴町80
パルマビル 2F-D

TEL:075-241-0781 FAX:075-708-7042
Email:kyoto@kyoto-jichiken.jp
HP:http://www.kyoto-jichiken.jp/



「住民と自治」10月号付録

河川の安全・防災を考える視点 <講演の報告>

山本真気(宇治市職労・宇治自治体問題研究所)

9月6日、宇治市生涯学習センターで「宇治川について考える視点」講演（宇治自治体問題研究所主催）が行われました。参加者は78名で、研究所会員や一般市民の方も含め多くの参加がありました。講師は、宮本博司さん（元国交省淀川河川事務所長、元淀川水系流域委員会委員長）で、これまでの業務経験をもとに実際に宇治川を歩いて感じたことや河川の堤防やダムについて機知に富んだ講演が行われました。

1. はじめに

昨今頻繁に発生している地球規模の自然災害に対し、政府や自治体は安心安全をテーマに掲げて政策対応しています。しかし、その政策がしっかりと根拠のあるものであるかを知ることが我々自身にとって大切であると考え、身近な宇治川を題材とし、河川の安全や防災について研究することを目標としました。

2. 「百聞（文）は一感に如かず」

宮本さんがまず始めに言われたことがこの一言です。いかに多くの文献を読み、有識者の講演を聞いたとしても、一時的にわかったように感じるが、何も残らない。まず、自分が現場で感じて学ぶことが重要であり、その中で裏付けや根拠となる文献を読み、学ぶことが大切であるということです。

宇治川のことを知るには、現地を歩くことから始め、それも上流や下流から、

堤防の上や河川敷等、色々な角度から観察し、何回も行うこと。また、歩くときは頭を真っ白にし、「危ない所はどこか」といった目的や課題を持って歩いてはいけないと説きます。目的や課題をもってしまうことで、そのことばかりに目が行ってしまい、他の物事を見たり感じたりしなくなるから（特に男性はとのこと）。そして、現地を歩くときは、1人で行うこと。これはグループで行動すると集中して川を感じることができない、気ままに歩けない、他人のコメントに左右されるといった、自分が素直に感じることへの弊害となるためです。



3. 河川の堤防は長大なフィルダム

ここで、川の流れを形作るものとしてダムがありますが、一般的に3種類あります。コンクリートでつくられているコンクリートダム、粘土層の表面を岩石等で補強したロックフィルダム、土を盛っただけで作られているフィルダムです。この中で最も危険なダムはフィルダムです。他の2種は水を通さない構造ですが、フィルダムは土だけであるため水を通し、決壊しやすい特性を持っています。

す。実際に決壊した殆どがフィルダムであったということです。そのため、ダム建設の常識としてフィルダムは建設しないこととなっています。

河川の両側には堤防があります。堤防によって人家は守られていますが、その中身は単に土が盛られているだけです。つまり、河川の堤防は長大なフィルダムともいえます。ダムに携わる業務を長年経験されてきた宮本さんからすれば、これほど怖いものはないと感じたそうです。また、堤防の危険性については、明治時代である1890年に当時の内務省雇工師であるヨハネス・デレーケ(オランダ)が「単に土砂を盛揚げた堤防は、その表面に草が生えているので、上から見ればあたかも頑強に見えるが、其の実、堤防のそばに住んでいる人達には甚だ危険である。」という報告書を内務大臣に提出しています。

しかし、現在に至っても同じ状況が続いています。

4. 日本の治水計画は想定尽くし

この間、豪雨による災害が起こるたびに、国や自治体は「想定外」という言葉を使います。自然現象は、いつ、どこで、どのような規模で起こるか想定できないものでありますが、日本の防災計画はこれらを全て想定して作られています。そして、その想定が覆されるたびに想定を見直すことを繰り返し行っています。例えば、河川の防災計画は、計画降雨を想定し、その雨による流量を想定します。そして、ダムによる洪水低減量を想定し、残りを川で流すための洪水量を

想定します。これだけ見ても、いかに想定尽くしの計画であるかが分かります。

「想定」をすることは悪いことではありませんが、その1つの「想定」を正しいと思い込んではいけません。「想定」はあくまでも「想定」であるため、「想定」が間違っているということを「想定」する謙虚さが必要です。

5. 洪水は防ぐものでなく凌ぐもの

自然現象が想定できない以上、根本的に洪水を川に押し込めて防ぐことはできません。そのため、洪水は防ぐのではなく、「凌ぐ」ものであると宮本さんは言います。

先人の例として、京都市にある桂離宮は昔から桂川の氾濫に曝されていたため、桂離宮は高床式構造にし、敷地の周囲に笹垣を配置することで、土砂や泥水の侵入を軽減し、洪水を凌ぐことに重点が置かれていることを紹介しました。

明治以来、河川に洪水エネルギーを集中させ、洪水を防ぐことに重点が置かれてきましたが、治水の基本は洪水のエネルギーを出来るだけ緩やかに分散させるかが重要であり、溢れさせる場所を作り、その場所の土地利用計画と一体となって実施していくことが重要です。



現実のパンデミックに直面してみると、保健所は困難な事態に陥ってしまったのはなぜか。保健所が時の権力による政策に翻弄されてきた歴史を見ておきたい。

保健所の直接の起源は戦前の1935年、先駆けである都市保健館の設置に遡る¹。1937年に保健所法制定。結核予防・母子衛生・栄養改善を中心に、健康相談・保健指導の事業が始まった。だが同年に盧溝橋事件、戦争への総動員体制が構築される中、保健所も戦勝のための国民の体力づくりの組織となった。

転換は敗戦と日本国憲法制定によって訪れる。敗戦後、多くの人たちが様々な伝染病とともに海外から引き揚げてきた。保健所は1945年、GHQの指導の下に壊滅状態から再起し、公衆衛生活動を再開。1947年に施行された日本国憲法の下、保健所法が全面改正された²。ここを起点に保健所は「健康で文化的な最低限度の生活」の実現をめざす機関へと転換した。その後、主要死因別死亡率における「結核」の割合が下がると、国の公衆衛生政策も感

染症から生活習慣病対策（健康づくり）へシフトし、保健所の守備範囲も拡大。保健所は日本における公衆衛生拠点として発展を遂げた。

だが1994年、保健所法の地域保健法への改正が大きな変化をもたらした。同法は新たに市町村保健センターを健康問題に関する総合窓口に位置付け（但し任意）、保健所は問題解決に必要な専門的・技術的助言を行う機関へと立ち位置が変更される。

当時の橋本龍太郎政権は史上初の新自由主義改革に着手していた。1996年、地方分権推進委員会の中間報告が廃止すべき地方自治体の「必置規制」の例に「保健所・児童相談所・福祉事務所」を挙げ、さらに保健所長の医師資格の解除を打ち出した³。結果として、必置規制は残ったものの、概ね人口10万人に一箇所の保健所設置基準が2次医療圏を基本に改められ、保健所数は激減。保健所長の医師資格要件が「原則」化された。

もしもこの時、保健所の必置規制が解除されていたなら、今日、新型コロナウイルス感染症へ対応する組織は

存在しなかった可能性すらあった。

いずれにせよ保健所機能に感染症対策を残したまま、設置数を減らし、従事者を減らしてきたことが、今日の新型コロナウイルス感染症との格闘における困難の大きな要因になっていると考える。積極的疫学調査で手一杯な現実には本来求められる役割に対し、ハード、ソフトともに保健所体制は弱まりすぎていたのである。

新型コロナウイルス感染症は、日本の感染症対策が都道府県と保健所に責

任を丸投げし、国家レベルでの方針が明確に出されないという貧相な実態を明らかにした。国が感染症対策に責任を果たす新しい仕組みの転換が急がれる。転換の中で保健所の役割もおのずと変化し、定まっていくものと考え

¹ これを資金援助したのは米国のロックフェラー財団である。

² 保健所強化の背景には日本側の設置した「慰安所」と占領軍による性病の蔓延もあった。

³ 『自治体病院の歴史』（伊関友伸著・三輪書店）

保健所数の推移

全国852カ所(1992年) ➡ 469カ所(2020年)

京都府12カ所 ➡ 2004年に7カ所1支所

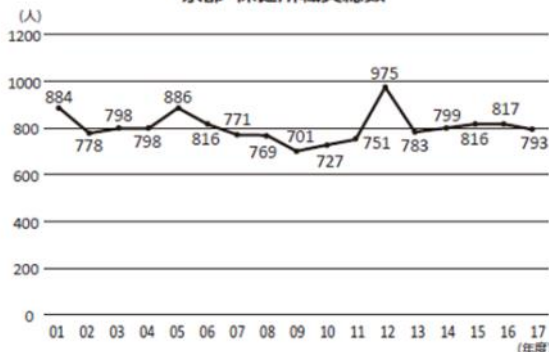
京都市11カ所(各行政区) ➡ 2010年に1カ所

(全国保健所長会「保健所数の推移」より)

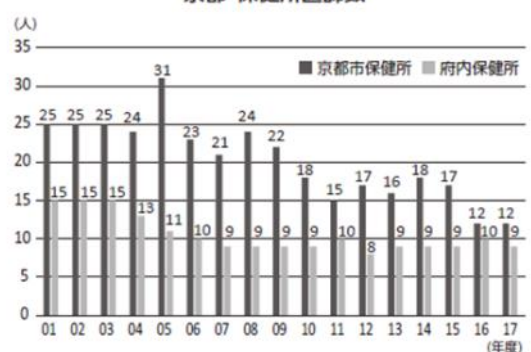
【参考】資料：厚生労働省 地域保健・健康増進事業報告

京都府保健統計

京都 保健所職員総数



京都 保健所医師数



京丹後市「米軍基地における新型コロナウイルス感染症拡大」における 問題点と取り組みの経過

日本共産党京丹後市会議員 橋本まり子

「勝つ方法はあきらめないこと!」、沖縄辺野古の基地建設現場に設置されていた看板の文字です。米軍や防衛省、そして日米地位協定の壁と言う大きな相手に対して立ち向かう私たちに大きな勇気を与えてくれる言葉です。

京丹後の米軍基地に発生した新型コロナウイルス感染症問題の経過や、その後の私たちの取り組みについて報告します。

近畿地方で唯一の米軍基地（米軍経ヶ岬通信所）が京丹後市の宇川地域に作られ、本格稼働してから5年10ヶ月がたちます。当初、日本の安全保障に寄与すると言う導入賛成派と、危険な米軍基地はいらないと言う反対派で、閑かな農業、漁業の地域が二分され、地元の方も「この話題は大っぴらに話せない」といった雰囲気醸し出されていました。

丹後地域の幅広い団体・個人でつくる「米軍基地反対丹後連絡会」や地元住民でつくる「米軍基地建設を憂う宇川有志の会」がビラを出したり、集会をしたりしながら、反対運動の要となってきました。

「市民の安心安全に対して万全かつ真摯に向き合い取り組んでまいります」との防衛省の約束の舌の根が乾かないうちから「集団通勤、集団居住」の約束が破られました。「発電機の騒音がうるさい」、「雪国での不慣れな車の運転による事故が発生」、「二期工事（基地内に軍人の滞在する隊舎や、厚生施設が建設



米軍経ヶ岬通信所

工事中) は、土日は住民の静音を保つために行わないと言いつつ、工事の遅れを理由に土曜日は常時工事が行われる」、「どんな些細な事故も報告し、その後の対策に生かす」などの合意事項も形骸化され、「立地のさいの約束を破っている」と怒りの声が寄せられていました。

市民の安心安全を守るはずの京丹後市も弱腰で米軍に追従する始末で、ますます住民の不安は大きくなるばかりでした。

新型コロナウイルス感染症が世界中で猛威を振るう中、幸いなことに京丹後市では感染者が出ていない状態が続いていました。しかし、7月26日の米軍人の感染が明らかになり、「感染者ゼロ」の町に衝撃が走りました。米軍は当事者の入国や、行動履歴など一切明らかにしない中、次々と基地を震源地として感染が広がっていききました。9月1日現在で軍人軍属13人、同居していた接触者である日本人2人の計 15人です。米軍関係者以外の感染者はいません。

この米軍基地には軍人20人、軍属140人が最大勤務するといわれています。そ

れに地元の方が基地の清掃、売店、運転手などとして勤務しています。さらに工事関係者も出入されます。

沖縄などの基地と根本的に違うのは基地内に軍人軍属の居住地や生活施設がなく、全ての軍人軍属が私達市民と同じ市内に居住し、日常生活をともにしていることです。日頃から、「マスクをせずに買い物などに米軍関係者が来ている」、「行動自粛が言われているのに居酒屋で飲食する姿をみた」など市民の中に不安と疑心暗鬼が広がっています。

「関係者全員のPCR検査を！」、「基地閉鎖を含む行動制限の徹底」、「感染者情報の開示」、「検疫など国内法適用外の日米地位協定の緊急改訂」などは地域住民の切実な要求であり、私たち日本共産党市会議員団は再三にわたり、国会、府議会、市議会でも要望してきました。

8月20日には大阪の近畿中部防衛局に井上哲士参院議員、府議団とともに京丹後市議団の三人も申し入れに行きました。奇しくも同日昼に倉林明子参院議員が厚生労働委員会で経ヶ岬通信所の「コロナ問題」について質問されており、市議団の三人は車の中で中継を聞きながら大阪に向かいました。

申し入れでは検査体制の拡充と感染症対策の徹底を強く訴えました。

このように運動や世論と連携した議会論戦や行政への働きかけを連日のように行いました。

この間、市長、市議会議長も防衛省を訪れ申し入れています。その後、経ヶ岬通信所を指揮する上位部隊の第38防空砲

兵旅団のマシュー・ダルトン大佐が市役所を訪れ、中山市長と会談しました。上位部隊司令官が直接対応したのはかつてないことであり、基地の軍人軍属が相次いで感染したことを重視した結果であると考えられます。

市長によると大佐は、「部隊の安全も大事だが地域住民の安全が第一。氏名は提供できないが、どんな施設に行ったのかなどの情報を提供する」と約束したとの事。市長も「情報開示し、保健当局と密接な対応をしてほしい」と求めました。

繰り返し要望した結果、濃厚接触者以外にも検査対象を広げ、基地で働く日本人従業員関係者や地域住民の検査が実施され、73人全員陰性との報告がありました。今のところ幸いなことに感染状況の広がりは一定の収束を見せています。

9月8日には京都府丹後広域振興局、丹後保健所へ府議団とともに行き、国や米軍に対して、保健所の対応をお願いしました。具体的には、「いつでも何度でも」の行政検査の拡充と基地対策室のある旧宇川中学校などにドライブスルー式検査センターの設立。市民の不安解消のための情報開示や検査、治療の情報周知を求めました。

地位協定の壁はあるとはいえ、市民の声をしっかり受け止め、ひるまず、諦めず、いろんな形でしぶとく届ける事が一番大事だと感じています。

私たちの力は小さいけれど無力ではありません。多くの府市民をはじめ沖縄のおじいやおばあの声も後ろを押してくれています。

1952年 京都市労連への全国支援

池田 豊(京都自治体問題研究所副理事長・事務局長)

前は、自治労連本部よりお預かりした
 1949年～53年の資料から、52年神谷信之助
 氏の蜷川虎三京都府知事への「京都府職組
 書記長専従許可申請」を参考に、京都府職
 労黎明期に神谷氏の果たした役割を考えて
 みました。

今回は、同じ自治労連本部の資料より、同時期の京都市における京都市労連の闘いについて書きます。68年前の資料は赤茶けてボロボロのため、スキャン後画像処理して読みやすくしてあります。

1950年、戦後最初の公選市長であった神戸正雄氏が、地方行政調査委員会議議長就任のため辞任しました。1月に結成された全京都民主戦線統一会議は弁護士の高山義三氏を推薦し、2月8日の京都市長に勝利しました。

さらに市長選で選挙違反に問われ木村惇知事が3月1日辞表提出したため、民統会議は蜷川虎三氏を擁立し、4月20日知事選に勝利しました。

47年自治労連結成・49年分裂、48年政令201号公布、49年1月総選挙で日本共産党4議席から35議席に躍進、5月吉田内閣は定員法により27万人の公務員整理、6月朝鮮戦争、7月下山事件、三鷹事件、8月松川事件、10月中華人民共和国成立、レッド・パージが全国に吹き荒れる激動の状況下での選挙でした。

京都でも島津製作所807名、市交通局、市役所、など府内270事業所で1万千人以上が解雇されました。

高山市長は、戦前の労働組合である友愛会（後に日本労働総同盟）支部長、弁護士を務め、戦後は自由党京都支部幹事長～京都民主党委員長～社会党京都府連顧問となった人物でした。当選直後から深刻な財政難の中、現在の地方交付税に当たる平衡交付金の増額を図るために高山市長は大規模で強権的な人件費削減に踏み切り、行政整理を実施し退職強要、首切りを強行しました。また11月にはGHO指令による公安条

例の強化改正案を市会に提案、社会党の妥協で成立させました。

当時もっとも戦闘的で京都の労働運動を牽引していたのは、交通労組など京都市労連でした。51年のベア停止に対するストに対し免職を含む懲戒処分を強行し、53年には市労連との交渉を拒否するに至り、革新市政は大きく転換し労使の全面対立状態となりました。

統一を成し遂げた自治労連は52年7月、各県連・単組に向けて、市労連に対する闘争支援を呼びかけました。その内容は単に市職員を守るための闘争支援ではなく、「日本の平和と独立を勝ち取る闘いを進めている自治労連に対する攻撃であり、自治体の自治権を剥奪して政府の出先機関とし、職を上げて戦争政策の手先にしようとする意図に他ならない」ことを明らかにしています。

高山市政との闘い、その後の五色豆と呼ばれた共産党を含むオール与党体制、同和問題によって、京都市労連、市職労の性格は大きく変化することになり、首長とともに民主的自治体を建設する役割は京都府政が中心的に担うこととなりました。



「経済政策で人は死ぬか? - 公衆衛生学から見た不況対策 -」

出版社: 草思社 著者: デヴィッド・スタックラー、サンジェイ・バス

翻訳: 橋明美、臼井良子 2014年10月 2200円+税

本書は、公衆衛生学の分野から経済・財政政策に問い直しを迫り、政策決定の場に一石を投じて、アメリカ、イギリスで話題となり、日本では2014年に翻訳・出版されました。著者の二人は、スタックラーが公衆衛生学・政治経済学の専門家でオックスフォード大学教授、バスが医師・医学博士でスタンフォード大学助教。

二人は、貧困の中で育ち、経済危機における困窮を自ら経験し、友人宅を転々とするなどその日暮らしの生活で、体調を壊します。経済政策が健康を破壊しホームレスを作り出すアメリカの現実を自ら体験して、家族の支えで大学へ進学しています。それだけに、経済危機の健康への影響を調査する姿勢がはっきりしています。イデオロギーではなく、命や健康を守るためには何が必要か、その事実の積み重ねに新たな発見があり読み手をひきつけます。また、用語が次々出てくる公衆衛生の専門書ではなく、だれにも読みやすいルポルタージュ風にまとめていることも、二人の著者の狙いがうかがえます。私は、当時この本を読んで、「まるで『ショックドクトリン』の公衆衛生版だ」と思いました。

本書では、アメリカ、イギリス、ロシア、東南アジア、アイスランド、ギリシャなど世界各地を訪れ、世界恐慌からソ連崩壊後の不況、アジア通貨危機、サブプライム危機後の大不況まで経済政策を公衆衛生の立場から丹念にデータを収集・分析しています。経済政策の違いによって人の命や健康、人々の暮らしにどのような影響を及ぼすか、経済再生にとって何が必要かを明らかにしていきます。

例えば、リーマン・ショックで経済が大打撃を受けたアイスランドとギリシャの比

較です。両国ともIMFに助けを求めますが、アイスランドは、国民投票で投資に失敗した銀行の債務を国民に尻ぬぐいさせるIMFの政策を拒否し、銀行を破綻するに任せ、医療などの社会保障支出を増やす政策を実施。その結果、アイスランド経済は急速に回復し、IMFへの返済も始まります。一方、IMFの政策に従ったギリシャでは、医療や社会保障予算を大幅に削減。結果、HIVが蔓延するなど健康破壊が進行、肝心の経済もGDPが4分の3に縮小し、公務労働者の大幅首切りなど失業者があふれます。どちらの政策が、国民の命を守り、経済を再生させるか明らかです。

本書は、新型コロナウイルス感染症が発生する以前に書かれたものですが、コロナ対策や『惨事便乗』経済政策に立ち向かううえで、確かな力となると思います。このコロナ禍に、『自助、共助、公助』『消費税増税』を政策とする菅内閣が誕生しました。門川京都市長は、財政危機を理由に「持続可能な行財政審議会」を発足させ、市民サービスカット、負担増の悪政を強行しようとしています。一人でも多くの方に、本書を読んでいただきたいと思います。



マンション入口の花壇から虫の声が聞こえてきます。澄んだ秋空になり、朝晩も涼しくなりました。宮津の知人からは「丹後の梨」が送られてきました。食料品店には、「マツタケ入荷」の貼紙も。秋が近づきました。秋と言えば、文化芸術の季節でもあります。9月中旬、身近な催しを訪ね、文化芸術の秋を楽しみました。

■ 14th 京都高瀬川彫刻展

四条通から三条通の間の木屋町・高瀬川に、「コロナを抗して」「風の姿2022」「明日へ」「歌声」「船出」などの作品名で約20ほどの造形物が設置されていました。リーフなどがなかったため、それぞれの作品に込められた作者の思いは、それぞれの判断に任せられます。なるほどと思う作品もあれば、？と思う作品もありました。



<「京都高瀬川彫刻展」の作品>

■ 2020秋 京都アート・クラフトマーケット

京都伝統工芸大学校と京都文化博物館の主催で、京都文化博物館の別館・中庭が会場。若手作家・職人のアート作品が43ブースで展示・販売されていました。作品は、陶芸、木工、ガラス、染織、革などの諸工芸品で、個性あふれる作品の数々です。若手作家・職人さんの活躍をささえる場として、春と秋に開催されます。

■ きぼうのともび万華鏡展

烏丸御池の南東、京都文化博物館の西側にある「万華鏡ミュージアム」で開催されていました。世界各地の様々な万華鏡を手にとってのぞいてみることができました。万華鏡は、船乗り達の希望の灯

であった灯台の光を遠くに飛ばす実験中に偶然見つかったとのこと。鏡の組み合わせにより見える映像が違ってきます。光と鏡が生み出すアート、鮮やかな色と光の世界を楽しみました。入口近くに、レンズの前にかざしたものが万華鏡を通して見れる装置がありました。写真は私の指です。



<万華鏡>

■ 京都マンガミュージアム

烏丸御池の北西角にあります。旧小学校の建物をそのまま利用して設立されたマンガの博物館。歴史的な価値のある資料やマンガ研究に重要なものから、昔楽しんだなつかしい作品まで、沢山のマンガが揃えられています。所蔵の約30万点のうち約5万冊が壁面に並んでいる様子は圧巻です。国の有形文化財にも登録されている昭和のレトロな建築物が醸し出す雰囲気も気分をゆったりさせてくれます。

コロナ禍対策としてとられていた「美術・博物館などの入場制限」は9月19日に撤廃されました。各種の催しこれから多く開催されるでしょう。文化芸術の秋も楽しみましょう。

事務局通信

安倍政治継承の菅内閣

菅義偉首相（自民党総裁）は9月16日、国会による首相指名を受け、自民、公明両党連立による菅内閣を発足させました。

内政、外交、政治モラル、コロナ対策など、どれを取っても行き詰まりの「安倍政治」を「この道しかない」と継承する菅内閣に未来はありません。

「自助、共助、公助」、菅首相がこのところ強調している言葉です。国民に「自己責任」を押し付ける冷酷な新自由主義の暴走がいつそう激しくなることに強い危機感をいだきます。

豊かな「自助や共助」の源である家族や地域の余力を奪ってきたのは誰か？

1991年の852カ所から2020年の469カ所まで保健所を大きく減らしたのは誰か？

「地域医療構想」による424の公立・公的病院の再編統合を強行しようとするのは誰か？

組閣された菅内閣は医療削減、社会保障切り捨てをさらに推し進めようとするものであり、安倍内閣が敷いた路線を見直しもせず引き継ぐことがはっきりしています。

医療や介護、保育など生きていくうえで欠かせないサービスを充実させるなど国が責任をもって支える社会こそ求められています。

●年報第13号論文募集● (20年12月発行予定)

6月出版予定の年報は、新型コロナウイルス感染拡大の中、予定が大幅に遅れましたが、12月に発行予定で準備することを総会で確認しました。

☆会員であればどなたでも投稿できます。

☆投稿種類：研究・討論・調査レポート、動向、資料、書評(投稿規定・執筆要項あり)

89th ツキイチ土曜サロン

- ・開催日 10月17日(土)
- ・時刻 14:00～
- ・場所 京都自治体問題研究所
- ・報告 藤本文朗さん

<今月の本>

PHP新書「改訂版 社会的ひきこもり」
(斉藤環、2020年2月、920円+税)

仕事に就かず、外出もせず、時に何年も自分の部屋に閉じこもったまま過ごす「ひきこもり」の数は、年齢を問わず全国で増加している。

精神科医として現場で「ひきこもり」の治療に携わってきた著者は、いわゆる正論やお説教では決してこの問題を解決することはできない、という。

「ひきこもり」を単なる「個人の病理」でなく、個人・家族・社会という3つのシステムの関わりによる「システムの病理」とする捉え方から、正しい知識と対処の仕方を解説(PHP研究所)。

お気軽にご参加下さい

土曜サロンは、参加自由、事前申込不要。終了後、参加者による気軽なワンコイン懇親会を行っています。



手のひらに憲法プロジェクト

URL <http://www.pocketkenpo.com>

<ポケット憲法のお申込み>

Mail info@pocketkenpo.com

TEL 075-211-1161

FAX 075-708-7042